
ウチの居候メカ。取扱いにつき注意

クー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ウチの居候メカ。取扱いにつき注意

【Nコード】

N0879Y

【作者名】

クー

【あらすじ】

健全なる男子高校生真夏ダイゴは、父親の海外転勤により家族が離ればなれになってしまい、ひとり暮らしを余儀なくされる。そんなある日のことだった。送られてきた大きなダンボール箱からひとりの少女が現れた。困惑するダイゴ、しかしわけもわからぬまま少女はダイゴの家に居候することに。笑いあり涙あり、メカ？ありの居候ライフが始まる。

ダンゴとメカ女

ひとり暮らしする俺、真夏ダイゴは健全なる高校1年生。なぜそんな歳で一人暮らしかって？それはとある日のことだった…

「ダイゴ、茜、ママ。お父さん今日社長と会議があつたんだ」

父さんに呼び出された家族は、いつになく真面目な顔で話す父親に緊張すら覚えた。静寂が包む中で、それを破ったのはダイゴだ。

「それで…何の会議だったの？」

父さんは真顔で答えた。

「今日はいいい天気だね。ところで真夏係長、君…マーライオンはライオンだと思うかね？　と言われたよ」

（ま、マーライオン！？）

「父さん、それって転…」

「まあ、どっちでしょうね？ パパはどっちだと思う？」

「パパはライオンだと思う♪」

「きゃ〜ママも♪ ダイゴ君と茜ちゃんは？」

「俺は…って浮かれるな、はしゃぐな！ バカ親止めるぞ茜！」

「お兄…もう無駄だよ」

父親は物置からホコリを被ったトランクを引っ張ってきた。

「ママン、確かめに行こうではないか異国の地へ！」

「はい、パパン！」

ということがありまして、お察しの通り海外転勤に母さんも着いてしまったのだ。

「今思い出しただけでも腹立つな、あのバカ親…」

ピンポーン…… 「ダッシュ」

「おい待て！ ダッシュ聞こえてんぞおい！」

郵便配達員がピンポンダッシュするなんて何運んで来たんだよ。と愚痴を言いつつ玄関の扉を開けると、前に大きいダンボール箱が置かれていた。

（…父さん達の仕送りか？）

たまには気が利くな、と愚痴った親に謝罪をしつつダンボール箱を開けてみると、中には体育座りをした朱の髪色の少女が気持ち良さそうに眠っていた。ので、その場でミケネコヤマトの宅急便に電話を…

「ふわああ…よく寝た」

少女が目を覚ました。

「はい、そうです。住所は…」

パシッ

「へっ？」

突然携帯電話が消えた。そして俺が気づいたときには、ダンボ

ールの少女が俺の携帯電話を握っていた。

「すまぬ、依頼は取り消しにしてくれ。それじゃの」

ピッ ツーツーツー

「ほれ、返す」

「お前、なにすん…って」

携帯電話を受け取ると、ダイゴは少女から目を反らした。理由は健全なる男子高校生なら誰でもそうする納得の状況。

「服を着ろ…」

バスタオル一枚にスリッパ。まるで風呂上がりかのようなスタイルで彼女は目の前にいるのだ。

「わかった。だが少し待て、今来るから」

「来るって…ダンボール箱には入ってないのかよ！」

まずい、今この状況は非常に危険だ…こうなったら…

「取り合えず俺の部屋に入れ！」

「わかった、そうする」

落ち着け真夏ダイゴ、そうだ、小さい時はよく茜を風呂にいられたじゃないか…大丈夫だ…

とりあえず少女を部屋に入れ、なんとか危機は脱したもののこれからどうする。

「おいお前、私はお腹が減ったぞ」

「『お前』じゃない。俺の名前は真夏ダイゴだ」

「ダンゴかあ…美味そうだ」

「ダ・イ・ゴ！」

羞恥の欠片もなく堂々と居座る少女に対して、ダイゴは少し苛立ちを覚えた。仕方ないか、見た目はまだ子供そうだし、中学になりたてぐらいの年代だろう。ここでムキになるのは健全なる男子高

校生としてみっともないな。

「お嬢さん、今いくつ？」

「私か？ 私は16だぞ」

え…同い年なんですけど。若返りの薬っていつ発売されたんだ？
それよりも高校はどこだ？

「高校…生？」

「ああ、明日からな。確か高校は、旋律高等学校とか」

なんだ旋律高等学校か…俺も旋律高等学校なんだよな。

「お前、転校せ…」

「来る！」

「何が!？」

ピンポーン……「ダッシュ」

「またか！」

玄関の扉を開けてみると、先程と同じくらい、人がひとり入れるくらいの大きなダンボール箱が置かれていた。

「また中に人がいるなんて無しだぞ…」

「案ずるな、下着だ」

「はやく着替えろ！」

数分後、着替え終わった少女を前に会議が始まった。

「ところでお前、どうやってここまで来た」

「簡単なことだ。風呂にいたら私の造った『ダッシュ3号機』に連れさられて気づいたらここにいた」

「ダッシュ…3号機？」

説明だ、ダッシュ3号機はお嬢様が造られた機械にして最速のメカである。1、2号機にも搭載された大胆不敵な他人の声での「ダッシュ」のかけ声を残しつつ、約50万件ものピンポンダッシュを成功させ、地域の悪性化を進めた実績もある。

「ほぼ犯罪じゃねえか！　そしてこのメカはなんだ！」

「説明君初号機だ」

説明だ、説明君初号機とは：

「少し黙れ！　それで、そのヘンテコなメカばかり造るメカ女はどうして俺の家に来たんだ？」

「メカ女？　それが私の名か？」

「ああ、メカ女はメカ女だ！」

今聞きたいことはそんなことじゃない。だが、少女は天使のような笑みで俺を見た。

「『メカ女』その名前は気に入ったぞ、ダンゴ」

「だからダイゴだって…」

何でだ、なんか調子狂うな…

「まあ、いいけど…明日は学校だ、今日は家に帰れ」

「何を言うか。私はここに住むぞ」

何を言い出すんだ？ 親は外国に行き、妹は祖父母の家に行き、俺しかないこの家にこんなガキっぽい同年代と同居？ ふざけるなっの。

「おお、夢に見た居候ライフの始まりだな！」

「できれば夢のままにしてもらえませんかね…」

居候するメカ女のせいで俺の生活が180度変わってしまうことは、この時の俺はまだ知らずにいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0879y/>

ウチの居候メカ。取扱いにつき注意

2011年10月31日10時15分発行